自然観察

No.139
2023.3 月

目　　次

- ウオッチングレポート ……2
- フィールドニュース……6
- 2023 年度総会のご案内……8
- 2023 年度総会議案　2022 年度事業報告……8
- 同　　2023 年度事業計画（案）……11
- 「自然に遊ぶ～子供の頃の遊び（3）」……14
- 編集後記・連絡先……16

「ヒヨドリ　飛翔」　（蘭越町 2 月）

ウオッチングレポート

札幌市　「精進川」観察会（番外編）　2022/9/4

札幌市　高橋　彩、鈴木　ユカリ

今回は６月の指導員講習会受講生の参加があり、リレー形式で解説をしました。

天気も良く、木々がつくる日陰の中を川の音を聞きながらゆったりと歩くことができました。種や実を中心にたくさんの植物を観察することができました。種を発見すると、上から落としてみたり、水に浮かべてみたりと、自動散布、水散布、動物散布、風散布のどれに当てはまるのか考えながら種を観察していると、ついつい夢中になってしまいます。種の散布方法から植物の子孫を残す工夫とその多様性を知ることができました。（高橋　彩）

札幌市の指標種でもある植物の種を観察してもらい、精進川周辺の自然環境が豊かなことを伝えました。後半は住宅地の側を歩き、自然観察会はいつでも、どこでも、だれとでも、を実践できたのではないでしょうか。終了時間がオーバーしてしまい、参加された皆様すみませんでした。（鈴木　ユカリ）

小樽市　「赤岩遊歩道」観察会　2022/9/25

小樽市　日下部　久

観察会当日は朝から晴れて暖かく、歩くと少し汗が出て、日陰に入るとほっとするような状態でした。遊歩道に向かう途中、民家の道路沿いに植えてあるリンゴの木（たぶんアルプス乙女）と、その隣にあった柿の木を見学。リンゴと柿が並んでいるのを見ることはあまりないので、果樹が好きなお宅なのでしょうね。その後、道端にある花・木・虫を観察。メノコツチハンミョウを１匹見つけると、その周りに仲間がたくさんいて驚きました（交尾中でした）。

先に進み遊歩道入口の駐車場に到着。駐車場は、登山者やロッククライミングの方々の車でびっしり。それを横目に、私たちは景色のいい山道を登り、小休憩を何度かしたのち、下赤岩山頂上や、テーブル岩経由で下山。２年前の観察会で見た、ギンリョウソウモドキには会えなかったのが心残りでしたが、終点のホテル・ノイシュロス上に何とか到着。

指導員含め全員高齢者でしたので、ケガもなく無事終了できたのがなによりでした。

苫小牧市　「秋の錦大沼」観察会　2022/10/9

苫小牧市　白崎　均

快晴。最高の観察日和です。参加者も増えています。夏が終わり秋がだんだんと近づいているようです。公園内は野の花が終わり、ほとんど見えなくなってきています。

ヤマウルシの葉が真っ赤に染まって目に入ってきます。外の木はまだ青々としています。さて今回のテーマのキノコの観察ですが、先月に一山が終わったようで少ないのが残念です。枯れた木や、倒れた木、折れた木にはキノコが発生していて、自然の循環を確認しました。

今回の参加者の中にキノコに興味のある人がいて、盛んにキノコに強い指導員と話し合っているのが、見ていて気持ちが良かったです。他の人達も落ち葉や紅葉の仕組み、果実の付き方など次々に質問があり、楽しい時間を過ごしました。

来年度も再会することを約束して、今年の観察会を締めくくりました。

札幌市　「屯田防風林」観察会　2022/10/22

札幌市　澤田　一郎

2～3日前は快晴、いつものパターンなら、秋だし、当日（22日）は曇りか雨と思ったが、予想に反して、無風の素晴らしい秋晴れになった。参加人数も予想以上に我々を含めて11名と久々に多い。千歳から来られた人もいる。準備したプリントが不足するという最近にはうれしい悲鳴？になった。

リハーサル日の横山前会長、当日の引地さん、村元さんの手助けもあり、楽しい一日となった。

観察スケジュールは昨年同様屯田防風林の歴史、種子の種類、散布方法、果実の種類などを、実物標本と照らし合わせながら説明、また樹木名の覚え方は、昨年の続きで新たな2枚のプリントを添えて説明した。

その後屯田西公園側から防風林に入る。時間の関係もあり1kmの往復。行は左側の道を歩き、帰りは右側の道を歩く。その間、説明した草木を主体に、樹木名、果実、種子の散布状態を見ていった。紅葉したツタ、風で飛ばされてきたシンジュ（ニワウルシ）羽種の塊り（集散花序）、オオウバユリの茎の頂につく朔果内にぎっしり詰まった翼種、ツルマサキやヤマグワの群生、担子菌類では落下したサルノコシカケ、イヌセンボンタケが特に印象に残った。冬の使者“雪虫”が飛んでいた。多分椴松とヤチダモの間の飛行なのでしょう。

創成川下水場からの小川の流れに浮かぶマガモの親子、「ピーヨ」と鋭く鳴くヒヨドリが我々の観察会に彩を添えていた。

みんなが互いに健康であれば、来年もこの続きをしていかなければと思った。

小樽市　「長橋なえぼ公園」観察会　2022/10/23

小樽市　日下部　久

あいにくの雨の中、傘をさしながらの観察会となりました。滑る斜面の歩行は危険と考え、いつもの行程の半分程度でおさめ、ゆっくりと園内の木の実や冬芽などを観察しました。

ほとんど人のいない園内では、ケヤキの木の下で「ケヤキヒトスジワタムシ」の学習。雨のため、当日は見られませんでしたが、下見の時に大量にみられた「メノコツチハンミョウ」の写真を使いながら、参加者に生態等を説明。ブナ・クヌギ・オオバボダイジュ・ミズナラなどの実や、タラノキ・ナナカマド・ノイバラなどの冬芽を見ながら屋外の観察を終了し、森の自然館のクラフト室へ移動。室内で冷えた身体を温めながら、雪虫についての説明などを行ない、懇談をしたのち解散となりました。

苫小牧市　「晩秋のウトナイ湖」観察会　2022/10/23

苫小牧市　谷口　勇五郎

セイタカアワダチソウはまだ花をつけ、ユウゼンギクは咲いていました。
湖畔に出ると、ガンやハクチョウは遠く向こう岸近くにいます。双眼鏡ではやっと確認できる程度で、スコープでも数十羽いるのが分かるぐらいでした。

一週間前の下見の時は、湖の中央より湖岸の方にいたのに残念でした。以前撮っていたガンやハクチョウの写真を見せました。

駐車場の近くではヤチダモが果実をつけ、ニシキギはきれいに紅葉し、キハダの果実を確認しました。林の方は紅葉が例年より遅く見ごろでした。ヤマモミジ、ツタ、ヤマウルシなど。

札幌市　「秋の北大構内」観察会　2022/11/3

札幌市　須田　節

札幌市の標本木ヤマモミジの紅葉が10日遅れで、ムクロジ科・サクラ・ナナカマド・イチョウ等の紅葉が鮮やかでした。実をつけているキハダなどから雌雄異株の区分けが容易でした。ニワウルシの種があふ

れんばかりに実る下方に木の成長が外側へ向かうのが分かる、髄が腐食し伐採されて間もない親木の切り株を見ました。

参加の方から、建物の話もとの要望があり、公害の原点の古河鉱業寄付の古河講堂・1902年に建てられた旧図書館・葡萄酒研究棟に変身する旧昆虫学教室・1935年に建築されエレベーターが３階まで設置された重厚な雰囲気の農学部を巡りました。

2004年台風の被害を受けたポプラ並木は挿し木で再生を図り、平成ポプラ並木もポプラ並木の挿し木で子孫を繋いでいるようでした。

フィールドニュース FieldNews

蘭越町港地区 海岸の植物の再調査実施報告 2022 年 5 月～9 月

蘭越町　大表　章二

後志管内蘭越町の西端は南北4kmにわたって海岸線が伸びており、内陸には見られない海岸植物が生育している。2016年、私はここで植物相の調査を行い、その6年後の2022の5月~9月に再び調査に 取り組んだ。以下はその再調査についての報告である。

なお計画の内容は前号の「自然観察No. 137号」でお知らせしたが、叙述に不十分な箇所があったので、調査項目を3項目から4項目に増やした。

再調査の内容

以下の4点について調査を実施した。

1, 桑原氏のリストにあって筆者のリストにない種を重点的に調べる
2, イグサ科、カヤツリグサ科、イネ科も調べる
3, 桑原氏の著作になく筆者のリストにある種を再確認する
4, 桑原氏のリストに未記載で、私がこれまで町内で確認していない種についても調べる

再調査の結果

1 について

桑原氏のリストにあって(イグサ科、カヤツリグサ科、イネ科を除く)私のリストにない13種について調べたが、確認できたのは、ヒロハヘビノボラズ(メギ科)、イソスミレ(スミレ科)の2種だけであった。

確認できなかったのは、ジュンサイ(ジュンサイ科)、シオデ(サルトリイバラ科)、オクトリカブト(キンポウゲ科)、チャボカラマツ(キンポウゲ科)、キバナノカワラマツバ(

アカネ科)、ホタルカズラ(ムラサキ科)、ムシャリンドウ(シソ科)、カムイヨモギ(キク科)、トキンソウ(キク科)、エゾホタルサイコ(セリ科)、オオカサモチ(セリ科)の11種である。確認できた種もできなかった種もすべて在来種である。

2 について

桑原氏が(後志の植物」(1966 年)に記載しているイグサ科、カヤツリグサ科、イネ科は合わせて16種である。そのうち確認できたのは、スズメノヤリ(イグサ科)、コウボウシバ(カヤツリグサ科)、カモガヤ(イネ科、帰)、ウシノケグサ(イネ科)、オオウシノケグサ(イネ科)、コメガヤ(イネ科)、ススキ(イネ科)、ムラサキススキ(イネ科)、ナガハグサ(イネ科、帰)の9種で、在来種が7種、帰化種が2種であった。

確認できなかったのは、シカクイ(カヤツリグサ科)、ハマチャヒキ(イネ科、帰)、ハマムギ(イ ネ科)、カモジグサ(イネ科)、アイアシ(イネ科)、ハネガヤ(イネ科)、シバ(イネ科)の7種で ある。在来種が6種、帰化種が1種であった。

桑原氏が記載していない種では、ドロイ(イグサ科)、タニガワスゲ(カヤツリグサ科)、アオスゲ (カヤツリグサ科)、ヒエスゲ(カヤツリグサ科)、カミカワスゲ(カヤツリグサ科)、ヒメクグ(カ ヤツリグサ科)、オオスズメノテッポウ(イネ科、帰)、ハルガヤ(イネ科、帰)、ヤマアワ(イネ科)、アキメヒシバ(イネ科)、シラケガヤ(イネ科、帰)、ホソムギ(イネ科、帰)、チカラシバ(イネ科)、オオアワガエリ(イネ科、帰)、ヨシ(イネ科)、スズメノカタビラ(イネ科)、オオイチゴツナギ(イネ科)、オニウシノケグサ(又はヒロハウシノケグサ)(イネ科、帰)、アキノエノコログサ(イネ科)、キンエノコロ(イネ科)の20種を確認した。在来種が14種、帰化種が6種である。

3 について

12種のうち、センニンソウ(キンポウゲ科)、ヤマハギ(マメ科)、ヒロハクサフジ(マメ科)、オニハマダイコン(アブラナ科、帰)、ギシギシ(タデ科)、エゾノカワラマツバ(アカネ科)、キタノコギリソウ(キク科)、オオアキノキリンソウ(キク科)、ハチジョウナ(キク科)の 9 種を再確認した。在来種が8種で、帰化種が1種であった。確認できなかったのは、キリンソウ(ベンケイソウ科)、アキノミチヤナギ(タデ科)、ネナシカズラ(ヒルガオ科)の3種で、すべて在来種であった。

4 について

桑原氏の著作にも筆者のリストにも未記載だった種についても確認できたので以下に列挙する。ツルマンネングサ(ベンケイソウ科、帰)、ミヤコグサ(マメ科)、コメツブウマゴヤシ(マメ科、帰)、マユミ(ニシキギ科)、オオマツヨイグサ(アカバナ科、帰)、エゾイヌナズナ(アブラナ科)、クコ(ナス科、帰)、ホソバウンラン(オオバコ科、帰)、ミヤマイボタ(モクセイ科)、ビロードモ ウズイカ(ゴマノハグサ科、帰)、ブタクサ(キク科、帰)、オオキンケイギク(キク科、帰)の12種である。そのうち在来種が4種で

8種は帰化種であった。

気づいたこと

1, ヒロハヘビノボラズ、ミヤコグサ、イソスミレ、エゾイヌナズナ、ミヤマイボを見つけた。これらの種は 2016 年の調査では未確認だった種である。イソスミレは工作物から数メートルしか離れていない所に 3 株あった。踏みつけなどが心配される場所である。エゾイヌナズナは磯谷トンネルの北側に岩場で一株だけ見つけた。この 2 種の存続はかなり危ういのではないかと思う。

2, まだ見たことのないホタルカズラ、ムシャリンドウ、エゾホタルサイコなどを必死で探したが見つけられなかった。消滅あるいは消滅に瀕していなければいいのだが。

3, 桑原氏が記載していない在来のイグサ科、カヤツリグサ科、イネ科をかなり見つけることができたのは収穫であった。

4, 桑原氏もカモガヤ、ナガハグサ、ハマチャヒキなどを記載しているが、上述したようにオオキンケイギ ク(特定外来生物)、ブタクサ(要注意外来生物)をはじめ、さらに多くの帰化植物が侵入していることがわかった。

5, 改めて感じるのは、開発が進んで海岸の植物が生育できる範囲がどんどん狭まっていることである。廃棄物処理施設や土砂堆積場に加えて、近年風車が林立し、太陽光パネルも設置され、資材置き場もできた。投棄ごみや漂着ごみも目立った。

6, カヤツリグサ科とイネ科に誤同定の可能性があるので、精査し直してより正確なものしたい。

2023 年度総会のご案内

日時　2023 年 4 月 8 日（土）13：00～14：30（受付 12：30～）
場所　札幌エルプラザ　2F　環境研修室 1（札幌市中央区北 8 西 3）

上記日程及び場所に於いて、2023 年度総会を開催いたします。
尚、総会後の講演会は、今年度は中止と致しますが、総会後希望者による交流会を行う予定です。多くの皆さんの参加を期待します。

2023 年度総会議案

1 号議案　　2022 年度事業報告

1 観察部所管事項

(1)観察会について

2022 年度の一般観察会は、親子夏休み自然観察会を除き、40 開催が予定され、7 開催の中止を除き現在（2/5）まで 31 開催が無事終了した。このうち報告書未着の 1 開催を除く 29 開催について集計、概要は下記の通り。

一般参加者数延べ 370 人、指導員参加者数延べ 98 人。一般参加者の年代別では、年代記載者 361 人中、70 代以上 216 人、60 代が 77 人、50 代 30 人、40 代以下 38 人となっている。最終結果は 6 月発行予定の会報に掲載する。なお、各観察会の実施状況は会報・ホームページに掲載中である。

指導員のための観察会は、みどりの日に行われた「道庁・北大植物園観察会」の下見を活用して「自然観察会予定表 2022」の中で呼びかけたが、コロナ感染症及び植物園休園のため観察会自体が中止となった。

(2)会計について

例年通り良好に観察会参加費は入金されている。詳細は事務局会計報告を参照のこと。

(3)傷害保険について

今年度観察会において、事故及び怪我の報告はなく、保険の適用は無かった。

2 研修部所管事項

(1)地方ブロック研修会について

昨年度中止となった道央第 2 ブロックと併せ道南ブロック研修会として、ポロト自然休養林～大沼国定公園～土橋自然観察休養林～黒松内町歌才ブナ林に於いて、6/10（金）～6/12（日）の日程で開催された。（詳細は会報 138 号に掲載）

(2)フォローアップ研修会について

「ゼロから始める身近な自然観察会」をテーマに、8/27（土）、余市水産博物館周辺をフィールドとして開催した。（詳細は会報 138 号に掲載）

3 編集部所管事項

(1)会報発行について

2022 年度発行の会報「自然観察」は、137 号（6/15）、138 号（10/15）、139 号（3/15）計 3 回。
また、全国 21 か所の自然観察指導員連絡会及び関係団体へ会報を送付し、交流を行っている。
編集部会は会報発行毎に 1 回開催し、計 3 回行った。

(2)ホームページ（HP）の運営について

HP のアドレスは　http://www.noc- Hokkaido.org/

4 実行委員会事項

(1)自然観察指導員講習会

「第 588 回ＮＡＣＳ－Ｊ自然観察指導員講習会・北海道」が 6 月 18 日（土）～19 日（日）の 2 日間、札幌市南区真駒内の「北海道青少年会館コンパス」に於いて、25 名が参加して開催され、その内 14 名が新たに協議会へ入会された。（詳細は会報 138 号に掲載）

(2)夏休み親子自然観察会

7 月 31 日（日）実施予定の夏休み親子観察会は申込みゼロのため中止としたが、札幌市北方自然教育園のご尽力により、改めて参加者を募り、9 月 18 日（日）に主催（広報と募集も）北方自然教育園、協力北海道自然観察協議会という形で実施した。

反省点として、交通の利便性やこの時期他団体がいろいろな形で子供を対象とした観察会と競合しているため募集に苦労すること、時期を逃すと池の水生昆虫が羽化しなくなることなどから、来年以降の実施はどうすべきか課題が残った。

概要は以下のとおり。

日　時　9月18日（日）10時～15時

場　所　札幌市北方自然教育園

テーマ　「森と池の生き物たちを観察しよう」

・森の動植物の観察

・池に生息する生き物を探そう

・スケッチと発表

参加者　3家族10人（子ども4人、大人6人）※指導員3人日時　8月1日(日)　10：00～15：00

5事務局所管事項

(1)事務局

①各種会議等の円滑な運営

ⅰ理事会について

2022/6/4（土）、9/3（土）、12/10（土）、2023/2/4（土）、4/8（予定）の5回開催された。

ⅱ総会について（会報No.137号に会計決算・予算及び議事録を掲載済み）

ⅲ講演会について

新型コロナ感染症の影響で中止が続いていたが、当会理事及びNPO法人もりねっと北海道代表の山本牧氏を講師に「里に近づくヒグマ～その理由と対策～」のテーマで、開催された。

（会報137号に関連記事掲載）

②入退会者の受付と会員名簿の整理

今年度の入会者は自然観察指導員講習会受講者14人で、退会者については3年間未納者と高齢によるなど、2023年2月10日現在で会員数187名となっている。

③他団体との連携・協力について

ⅰ高山植物ネットワーク

環境道民会議

ⅱ講師派遣依頼　今年度は無し

(2)総務

①懇親会は、昨年に引き続きコロナ禍のため中止とした。

②編集部の依頼により会報の宛名ラベルの作成に協力した。

(3)広報

①「観察会の予定表」の配架と情報提供

・配架場所　各地区の自然センターなどに設置。また、観察会で参加者に配布した。

・情報提供　自然ウォッチングセンターのホームページへ掲載された。（観察部）

(4)会計→2号議案にて報告

昨年度3年間未納者については退会扱いとし、今年度で3年間未納者は10人の予定で年度末までに会費の納入が無い場合は退会扱いとします。

第3号議案　2023年度事業計画（案）

1 観察部所管事項

(1)観察会について

今年度の観察会実施計画は別表の「2023年度自然観察会の予定表」の通りであり、34開催が予定されている。今回掲載以外にも企画があれば、できる限りバックアップするので観察部（山形）へ連絡をお願いする。各観察会連絡担当者の方は、一般参加者名簿、指導員用名簿及び観察会予定表など、必要枚数を観察部山形までご連絡のこと。尚、各観察会で行う下見は、会員同士の交流と研修の場ともなるので有効に活用していただきたい。

(2)観察会参加費について

観察会参加費については、現行良識の範囲で、各観察会ごとに決定して良い事としている。各地域ごとに活動財源とする事も妨げるものではない。資料作成などで赤字となることの無いよう参加者数の予想など、これまでの経験を活用し適切な金額としていただくよう希望する。

保険料としての協議会への納入は、最低でも一人50円以上としていただきたい。参加費は観察会予定表、参加費欄に記載される。観察会予定提出の際には参加費の記載をお願いする。記載のない場合は200円として記載する。

(3)実施報告・会計について

①観察会の報告書は観察部（山形）へ送付のこと。また、観察会の活動写真を数枚程度必ず送るようお願いする。写真に参加者が含まれる場合は事前に承認を得るようにお願いする。寄せられた報告書・写真は会報またはホームページに掲載されることがあるので了承されたい。併せて、会主催の総会、道庁・植物園観察会、各研修会の報告と写真の提出も宜しくお願いする。尚、観察部会計は、会計処理の円滑化を図るため事務局会計に移行することとする。

②保険料などを現金で振り込む場合は観察部会計へ直接送付のこと。ゆうちょの振替口座への振り込みを利用する方は、会計へ申し出でること。印字済みの振込用紙（振込取扱票）をお渡しする。

※ゆうちょ振替口座番号：2770-9-34461　　加入者名：北海道自然観察協議会観察保険料

参加者名簿と一人当たり50円の保険料を協議会へ送付のこと。但し、1泊2日以降は該当しない。

(4)傷害保険について

観察会参加者の名簿が基本的となる。名簿の記入後から保険の対象となり、帰宅まで（帰宅径路を大幅に外れない範囲で）有効である。また、指導員の車に乗せて、観察場所を廻る場合でも集合時に名簿の記載があり観察会の参加者であることが分かれば保険の対象となる。

事故が起きた場合は、速やかに適切な処理を行った後に、下記の保険代理店の担当者に連絡し、事務局へ連絡をお願いする。

保険会社代理店：ケイティエス　本間　茂　電話011-873-2655　　日曜、祝日休業
普通傷害保険（エース損害保険株式会社）死亡保険：600万円、入院保険金額：5,000円（180日以内）日額通院保険金額：2,500円（90日以内）

2 研修部所管事項

(1) 全道研修会（研修部が企画し現地の指導員と連携しながら運営する研修会）

今年度は中止とし、開催に向けて見直しを行う。

(2) フォローアップ研修会（研修部が企画し指導員の力量向上を図る実践的研修会）

今年度は中止とし、開催に向けて見直しを行う。

3 編集部所管事項

(1) 会報発行について

会報「自然観察」は 140 号（6/15）、141 号（10/15）、142 号（3/15）、年 3 回発行予定。

(2) ホームページの運営について

依頼された内容は速やかにアップし、会員へホットな情報を届けるように心がける。

4 実行委員会事項

(1) 夏休み親子自然観察会

今年度は休止予定。開催の有無については今後の理事会などでの協議を経て決定する。

(2) 実施の場合の予定

日　時　　7 月 30 日（日）

場　所　　札幌市北方自然教育園

内　容　　森と水辺フィールドにおける自然観察と生き物採集とスケッチ等

実行委員長　三澤英一理事

5 事務局所管事項

(1) 事務局長

①各種会議等の円滑な運営

ⅰ理事会について

必要に応じて の年 4 回程度開催予定。

ⅱ総会について（省略）

ⅲ講演会について（総会後に同会場にて開催）

講演者　今年度は開催なし。総会後に交流会を行う。

②入退会者の受付と会員名簿の整理は会計と連携をしつつ進める。

③他団体との連携・協力について（昨年に引き続き、連携を図る）

・北海道/環境財団（北海道地球温暖化防止活動推進センター）

・北海道/環境道民会議（北海道環境生活部環境政策課環境企画グループ）

・札幌市/環境局（北海道環境生活部環境局）

・高山植物保護ネットワーク（さっぽろ自然調査館内）

・全国の自然観察指導員連絡会・関係団体への会報送付

⑥事務局業務のスリム化への取組推進

今後の会の継続のために、事務局サイドの業務を整理・分担して、できる限り負担を少なくする工夫をし、事務局（役員）のなり手が就任しやすい環境づくりに向けて、提案・実行して行く。

(2) 総務・広報

①懇親会

②観察会予定表の設置や自然ウォッチングセンターの掲載などは担当者と連携して活動を進める。

③道民カレッジの連携講座の窓口

道民カレッジ連携講座・開設の流れ　（希望する観察会担当者） 道民カレッジのホームページから各自申し込み。 ※道民カレッジでは申し込みは随時行っていてホームページに掲載されるが、講座一覧の冊子に掲載されるためには期日に間に合うように申し込むとよい。 例　申込期日（前期 4～9 月分）　2 月上旬必着（期日は HP などで確認のこと） ※道民カレッジに団体として登録している ID と PW（パスワード）は以下の通り。 北海道自然観察協議会　ID:　Af(1MhT%　PW:　sizenkyo19%

(3)個人情報について

本協議会では、個人情報保護法の対象団体ではないが、保護法の趣旨に基づき、入手した個人情報は、観察活動の目的以外には利用しない。また、保有する個人データは適正に取扱い、第三者に提供することはない。会員各位は、個人情報の取り扱いには留意し、特に会員名簿は外部に流失しないようにお願いする。

(4)講師派遣依頼について

団体などから観察会の要請があれば、事務局が窓口となり一括して指導員派遣の要請を受けていく。

(5)分野別ガイド・備品

①得意分野で、会員からの疑問や地域情報の問い合わせに対応していただける方々。また、分野別ガイドとしてご協力いただける方は、事務局へ連絡をお願いする。

分　野	名　前	電　話	住　所
水生昆虫、魚類	札幌市さけ科学館	011-582-7555	〒005-0017 札幌市南区真駒内公園 2-1
昆虫（甲虫）	堀　繁久	011-571-2146	〒005-0832 札幌市南区北の沢 2 丁目 20－18
植物全般	与那覇モトコ	0133-74-7952	〒061-3211 石狩市花川北 1 条 2 丁目 148

②備品の管理状況

備　品	数量	保管先
実体顕微鏡ニコンファーブルミニ	2 台	横山武彦（江別市）☎011-387-4960
水生動物採集用具		三澤英一（北広島市）☎011-372-0745
大型旗(120×180)	1 枚	鈴木ユカリ（札幌市）
ポール　（折りたたみ式）	3 本	同上
小旗	3 セット	同上

(6)会計→第 4 号議案にて提案　別紙

会計業務の所管事項に観察部会計を入れる。

6 その他事項

課題検討委員会からの提言及び今後の運営について。(別紙)

『自然に遊ぶ～子供の頃の遊び』(3)

村元健治・北海道自然観察協議会理事

⑦ホタル取り

夏の夜の遊びの代表は、このホタル取りだ。

私が住んでいた地方は、本当に自然豊かな所だったので、昭和30年代は、アチコチにホタル(ヘイケホタル)がたくさんいた。

とくに私の家の周辺には、大小の河川があった上、湿地のような所もあったのでホタルが多数棲息していた。

最も暑い7月の下旬頃にホタルが集中して飛び交った。

その頃の夜は、一部市街の周辺こそ明るかったが、ちょっと郊外に出ると、薄暗い電灯が灯っていた電柱がポツポツとあるくらいで、あとは真っ暗だった。

だからホタルが灯りを幻想的に点滅させている状況はすぐ判ったものだ。

それら点滅を放つホタルを団扇(うちわ)もしくは、大きくなったヨモギなどを使って軽く打ち落とすという方法で捕まえた。

この捕獲の時は、「ホー、ホー、ホタル来い、こっちの水は甘いぞ」という唱歌「ほたるこい」の歌をしばしば歌いながらホタルを取ったものだ。

たくさんいたので10や20匹捕まえるのは、いとも簡単だった。

こうして取ったホタルを私は、青草を少しばかり入れたグラスコップの中に入れた。上蓋として紙を使ったが、その紙にはホタル達が呼吸できるようにクギ等で穴を開けたものだった。グリーン色に染まった草の間で、淡い光をピカー、ピカーと放つホタル達の姿は、大変、幻想的かつロマッチックなものだった。

そのコップを私は、いつも自分の枕元に置いて、うつ伏せになりながら、飽きもせずに眺め入ったものだ。

しかし、そうした眺め入りも、10分間も持たなかった。というのは日中の遊び疲れがドッと出てしまって見入っているうちに、何時の間にか夢の世界に誘い込まれてしまったからだ。

⑧川遊び・水泳

川遊びには色々あるが、その一つとして水泳について紹介したい。

私も、この水泳については、本格的には(?)小学校高学年の頃から盛んに行った。

田舎だったから、プールもないし、インストラクターもいなかった。それでは何処で泳いだかというと、川だった。

海水パンツなどの粋な物を付けている者は全くいなくて、私含めて皆、手拭いを使った褌スタイルで泳いだ。

泳ぎの時は、全く子供たちだけで泳いだもので、大人達はいなかった。

泳ぎそのものについては、互いにその泳ぎ方を見習って、真似をするというもので、したがって基本も何もなかった。だから、名実共に自己流、我流だった。

この水泳で楽しかったことは、水中の深い所に投げ入れた白い手ぬぐいで包まれた石を潜って、取ってくることだった。時には体が木の根に引っかかることもあったが、潜水能力がある程度、求められるスリルのある遊びだった。

もう１つ楽しかったことは、冷たい川で泳いで冷え切った体を暖めるために燃やした焚火で、いろいろな物を焼いて食べることだった。その中で、強く印象に残る食べ物は、ヤナギの木の枝に付いた葉っぱを軽く焼いて食べたことと、清冽な川にのみ棲息する淡水貝であるカラスガイ（カワシンジュガイ）という貝を焼いて食べたことである。

ヤナギの葉を何故、食べたのか定かではないが、何回か食べた。

大人になってからアイヌの民話で、昔アイヌのコタン（部落）が食糧危機に陥った時、アイヌの神様がヤナギの葉を川にバラ撒いたところ、たちまちにして葉がシシャモとなって人々は助かったという話を聞いたことがあった。その話を聞いた時、そういえばシシャモと云う字を漢字で書くと、「柳葉魚」と書くということを思いだした。

このことに気付いた時、ひょっとしたらヤナギの葉を食べることを促した子供はこの民話・伝説を知っていて我々に食べることを薦めたのではないだろうかとも思ったりもした。

貝の方は、その頃、泳ぐ川の底に真っ黒になるほど棲息していたのを、得意の潜りで取って食べたが、野性の物ゆえ、肉質が硬くて食べるのに閉口した。

とにかく、そんな食べ物を食べながら、半日ほど泳ぎまくり、疲れたら熱くなった河原に寝て、過ぎ行く雲をぼんやりと眺めているという至福の時間を過ごしていた。

⑨肝試し

子どもにとって怖いものが、幾つかあった。そのうちの一つがお化け（幽霊）だった。子供同士で、あるいは大人から、これらの話を聞いて、面白がったり、怖がったりしたものだ。

実際にそれらしきものは、見たことはないが、いつもそれらしい場所に来ると出て来るのではないかと怖がっていた。

よくある肝試しに夜、墓場に行くという話は聞いたが、私は全くそのような経験はなかった。

その代わりよく友達から聞いたのが、火の玉（人魂）の話だった。

この話は、結構あちこちで聞いた。しかも実際に見たように生々しい、ぞっとするような話で語られたものだから、私もすっかり信じ込んでしまった。

友達から聞いた話では、家の窓の所に大きな丸い火の玉がいたとか、ゆっくりと赤い、あるいは青白い球がゆらゆら飛んでいたというような話が多かった。

そんな話を聞くと、夜は怖くて外は歩けなかったし、また歩いても、すぐこのことを思いだして、今にもお化けが出てくるのではないかと肝を冷やした。

お化けと言うと、この火の玉ではなく、東映映画で見た「四谷怪談」で見たお岩の幽霊の顔がいつまでも覚えていて、大変、怖い思いをしたことがあった。お岩役をしたのは千原しのぶという女優だったが、その

お岩に扮した恐ろしい顔を映画でまともに見てしまったのだ。それ以来、夜、小便に行けなくなってしまった。廊下を通ってうす暗い豆電球しか灯っていない便所に一人で行くことはどうしても行けなかった。その結果、寝小便をしばしば垂れるようになってしまったが、この悪い癖は、この映画のせいだったと今でも思っている。

（編集後記）

新型コロナ初確認から3年、本年3月13日からはマスク着用は個人判断になりました。また、5月8日からは従来の2類相当から季節性インフルエンザなどと同じ5類に移行します。色々な意見等はあるとは思いますが、観察会等の活動が活発化して欲しいものです。

ところで理事会では、協議会のあり方が議論されています。会員の高年齢化、若手不足、会費不足等に関連する会員制度の見直し、事務局長の負担軽減、各種イベントのリモート活用、道内各地域間の会員連携、会費・観察会参加費の見直し、研修会の精選、会報の発行経費と頻度、ホームページの利活用等多岐に渡ります。各会員のニーズは様々、取りまとめや対策の実行はとても大変だと思いますが、会員の皆様にとって魅力ある協議会になることを期待しています。

私が入力作業を行なっているホームページについては、表現の制約、運用やコスト等に関して様々な改善課題はありますが、約20年間の協議会活動情報が蓄積され振り返る事ができるなど価値あるサービスだと認識しています。これら蓄積情報を引き続き維持しながら、NACS-J等のWEBサイトを参考にしつつ会員の皆様がより利活用できるようにレベルアップ出来たら良いと思っています。　（田守）

自然観察 2023年3月15日/第139号　年3回発行
(会員の「自然観察」購読料と郵送料は会費に含まれます)
発行　北海道自然観察協議会
編集　北海道自然観察協議会編集部